

防衛大学校本科第31期学生及び理工学研究科第22期学生 入校式における学校長式辞（昭和58年4月5日）

本日、防衛大学校本科第31期学生508名及び理工学研究科第22期学生63名の入校式を挙げるに当たり、林防衛政務次官^{注(1)}、生田目航空幕僚長^{注(2)}、島田防衛庁衛生局長^{注(3)}、吉田海上幕僚副長^{注(4)}、一宮統合幕僚会議事務局長^{注(5)}、馬郡陸上幕僚副長^{注(6)}をはじめとする各位、更に地元横須賀市からは青木市議会議員^{注(7)}、小佐野商工会議所名誉会頭^{注(9)}等多数の来賓の御臨席をいただきましたことは、真に光栄であり、ここに職員並びに学生一同に代わり厚くお礼申し上げます。更に全国各地から、はるばる御臨席をいただきました父兄の皆様に対しましても、心からお礼申し上げますとともに、御子弟の入校を衷心よりお祝い申し上げる次第であります。

本科入校の新生諸君、諸君の入校を心からお祝いいたし、ここに在校の全職員、全学生とともに、諸手を挙げて歓迎いたすものであります。

さて、防衛大学校の教育目的は、防衛庁設置法第33条に明示されておりますとおり、「幹部自衛官となるべきものを教育訓練する」ことにあります。換言すれば、本校は、将来、我が国の陸・海・空各自衛隊に



第4代学校長 土田 國保

注(1) 林 大幹

注(2) 生田目 修

注(3) 島田 晋

注(4) 吉田 學

注(5) 一宮眞之

注(6) 馬郡道生

注(7) 青木 茂

注(9) 小佐野皆吉

あって活躍する幹部を育てるために存在するものであります。この故に本校の教育は、一般大学のそれと共通なものを持ちつつ、当然ながら、他の大学には全く見られない特色を有するものであり、諸君はこれから4年の間、防大教育の基本方針に沿って、大いに努力、研鑽を遂げられんことを期待するものであります。

入校に当たり、私は次の三点について、特に本科入校生諸君に要望いたします。

まず第一に諸君は、今後の己れの間人形成について、幹部たるにはいかにあるべきか、すなわち真の紳士にして真の武人たるにはいかにあるべきかを大目標とし、諸君の日常生活を支える柱としていただきたい。全学生の規律正しい団体行動、そして団体訓練こそ、本校学生生活の基幹をなすものであります。特に第1学年にあっては、まず形から入ってゆく日常の躰教育と基本訓練から始まるのであります。これこそ、将来多くの部下の長たるべき幹部としての資質錬成の第一歩なのであります。どうか諸君は、素直な気持でこの雰囲気の中に積極的に飛び込み、そしてなじみ、指導教官や上級生の指導のもとに、まず幹部候補生たるにふさわしい容儀、態度の持主となってもらいたいのであります。

もとより4年間の学生生活は、他律的強制下で個々の自主性、個性を失うようなものであっては絶対になりません。最初こそ他律的に感ぜられる生活環境も、学年がすすむにつれて自主的、自律的要素が重んじられ、その間に己れの個性を磨き、幅広く奥行深い人間形成を遂げることが要請されるのであります。将来、自衛隊幹部たるに最も必要なのは、自制の心と自主積極の精神であります。諸君も、やがて指導される側から指導する側に、自ら率先垂範を要求される立場に立つのであります。どうか諸君一人一人が、この4年間の小原台生活を通じ、見事なる人間の成長を遂げ、個性豊かにして、随所にリーダーシップを発揮できる若人として、自己を練りあげて行かれんことを切に期待するものであります。

第二に諸君は、学生として、学問の研鑽に真剣に取り組んでいただきたいということでもあります。今日、どの世界先進諸国における士官候補生教育は、一般大学レベル以上の知的水準達成と学力の向上を目指しております。今や我が国自衛隊の幹部たるには、高度の学識、学力の保持者でなければ通用しない時代に来ているのであります。諸君のこれからの勉学が、本物の自衛隊幹部として育っていくことに繋がるよう祈ってやみません。率直に申して、日常生活に緊張がつづく当初の間は、学業

においても精神的にやや受身の姿勢になりかねません。しかし、それがひいては惰性となって、その日暮らしに陥ってしまうのでは、4年間のこの歳月はあまりにも貴重すぎるのであります。何と云っても、最初のスタートが大切であります。今後の4年間、各教官方の御指導に従って真剣に学習に励まれ、学窓を巣立つ時には、悔いなき実力を蓄積されておりますよう切望するものであります。

第三に諸君は、必ずどこかの校友会クラブ活動に参加して、心身を鍛え、豊かな情操を養っていただきたいのであります。

卒業生は、留学生を含めて、今や1万2千人を超えているのであります。これらのOBの諸君が、防大時代のなつかしい思い出を語る時、異口同音に飛び出すのはクラブ活動についてであります。クラブ活動こそ、学生生活の要の一つであり、20歳前後の青年期が心身の鍛練に絶好の機会であることと相まって、一生忘れ得ない楽しい思い出ともなるのであります。そして将来、幹部自衛官として陣頭に立つ時、いかなる状況下にあっても、戦い抜くことのできる力の源泉こそ、ここで養われるものと断言して憚りません。そして、生涯を通じての良き師、良き先輩後輩、良き同期生の絆も、この小原台における汗と涙から生れいずるものと信ずるのであります。

次に、理工学研究科に入校された諸君に申し上げます。

諸君の多くは、今日まで第一線にあって、日常業務に忙殺されておられたことかと存じます。諸君の同僚達が、陸・海・空それぞれ重要にして多忙な朝夕の勤務に明け暮れておられるとき、諸君は選ばれてここに再度研学の機会を与えられ、数年前の大学時代の勉学を改めて再確認し、諸先生方の指導のもと、高度な専攻分野を研究することができることは、真に御同慶に堪えません。どうかこの際、非常な熱意と努力をもって研究に取り組み、将来の飛躍と大成の素地を作りあげていただきたいのであります。

現在、世界各国は、防衛科学技術の開発強化に限りない努力を傾むけております。21世紀を迎えて、我が国防衛の最大の課題の一つは、正に技術開発力の強化にほかなりません。重ねて諸君の精進を期待するものであります。

時あたかも桜花爛漫の春、青き海原を眼下におさめるこの小原台上にあって、祖国防衛の尊き任務達成のため、第一歩を踏み出さんとする諸君の健闘を心から祈りつつ、式辞を終るものであります。